

平成22年度 第2回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成22年9月27日(月) 13時30分から15時30分まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 : 林委員、大崎委員

(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

- ・ 前回の議論に引き続き、ICT活用の教育モデルはどのようなものか、大規模授業を克服するためにICT活用で補う方法がある。講義(大・中・小教室)、ゼミ、問題解決型授業をバーチャルな空間で行う等、3つのアプローチから教育モデルを考えることができないかとの意見があった。
- ・ 前年度委員会でまとめた学士力考察に対して到達目標のどの部分に効果があるか検討された。議論をWEB掲示板に上げさせると2チャンネル化してしまうため、3人毎の小グループに分けて討論させる際、対面式の方がより効果がある。授業支援として補助的にICTを使うほうが良い。リアルと仮想教室の授業について、授業支援システムのパッケージタイプは使いにくい。教員と学生の1対1でスポーク型になっており、学生同士の議論展開ができないため、授業の発展性がない。ネットのメリットは即時性、ネットワーク性、補完できる点であり、これから授業支援システムのパッケージに対して改善の要求をしていかなければならない。キャリアの問題を考えたときに、生きる力、協働する力、参加する力を発展させることができる。PBLは国際問題を取り上げて議論させる使い方に活用しやすい。国際関係学では実際の問題をテーマに学生参加型モデルを実践しているが、双方向の学習のグループ討論で互いの意見を聞くことで学生の理解度が上がる。
- ・ 以上の意見から具体的に学士力のどこをターゲットにするか到達目標をあげ、達成するための授業を想定して、授業デザイン全体をイメージし、その中からICTを使ったところを取り上げ、学習方法等を運用する上での課題点を含めてまとめることとなった。議論で意見のあった学習参加型モデル、問題解決型モデルの現在行っている教育モデルを参考にして、学士力到達目標については、以下のテーマについて検討する。
 1. 学士力到達目標1について、国際関係を学ぶことが生活の中でどのように関わっているか、身近な具体的な例をあげて動機づけをさせる教育モデル。
 2. 学士力到達目標3について、議論して常に考える。現状を把握する訓練が必要。PBL型モデル。

V. 次回の開催日程 ; 11月で日程調整

本日の議論をもとに10月15日(金)をめどに、各テーマ1つの案をだして意見を交換することとなった。11月に日程調整の上、次回委員会を開催する。